

2019年3月3日 (第189号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



# カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
私たちにあって、マリア様は喜びの源です。わたしたちに、イエスを贈って下さったからです。わたしたちもイエス様を贈ることが出来ます。他の人々の喜びとなることが出来ます。

## 福音奉仕者として平和を願う

### 諏訪榮治郎司教2019年度司教書簡



諏訪榮治郎司教は2月5日付で「社会とともに歩む教会をめざしてー平和を願う福音の奉仕者として」と題した2019年度高松教区司教書簡を発表した。その要旨を紹介する。

まず歴史の流れの中で「いま私たちが立っているところ」として、この書簡を書き終えた2月5日が「日本26聖人殉教者」の祝日であることを指摘。

日本のキリシタンたちは250年にわたり潜伏し信仰を守り抜いた。その間は司祭不在の中で「信徒のみの自主運営共同体」によって迫害に耐え、「信仰・希望・愛」にもとづく「家庭集会」の教会を守ってきた。

その結果、外圧にも助けられたが、「キリシタン禁令の高札」は撤去された。私たちの先達は過酷な迫害に耐え、幕府からも、明治政府からも奪われない精神的価値(教え)を守り抜いたことを大きな喜びとしている、と司教は誇らかに述べる。

その後、ヨーロッパでは近代化と社会経済の波が人間の新しい苦しみを生み出した。その対応としてピオ9世教皇が第一バチカン公会議を招集、教会の立て直しを図った。

教会が社会に派遣されな

から、社会の動きに無関心という「閉ざされた教会」という意識が生まれたからだという。このことは今も日本社会へ影響している指摘。

21世紀に入り国際社会の関係破綻により、第二次世界大戦に突入。消滅することのない痛みと傷を、世界に大きな対立を

もたらした。その悲惨な人類の過ちの中で、教会が何もなかった反省と責任から教皇ヨハネ23世により第二バチカン公会議が招集され、社会の中で「教会の使命は何か」

外国人労働者支える また、カトリック教会は

### 新しいきずなで喜び、豊かさ

#### 教会は全ての人に開かれる



手探りながらの福音マーケット作業に取り組む

すべての人に開かれた普遍的な教会である。と司教は述べる。教会は弱い立場にある人々を優先する震災被災者の避難所、支えあう場となっている。そして教会は日本人のみの教会ではないと司教は述べる。

4月から外国人労働者受け入れの法律が施行される。既に多くの外国からの

「教会とは何か」を自ら問

教会は様々な努力をしなくてはならない、と司教は強調する。そのことが神様から教会に与えられた「きずな」づくりの大きな喜びとなり、より豊かな教会になる体験ができること述べる。

教会が社会問題、平和問題にかかわるのは、キリストが人々と向き合い、神と人との絆、人と人との絆、人と自然との絆を新しくされたことである。という。

キリストは常に弱い立場の人々の側から社会を見つめ、その病巣に目を向け、驚くべき奇跡で「癒し」を起し、新しい人間関係を作り出され回復の喜びをもたらした。

一人一人の「命の尊厳」を守り、神の国の訪れを告げられたイエスの姿は「新しい関係への奉仕者」の姿であったと司教は述べる。

#### 「福音マーケット」

次に昨年、一昨年と教区を挙げて実施した「福音マーケット」について。

この分ち合いは「社会」ともに歩む教会への一歩であったと司教は述べる。「教会の豊かさ」が多くの

人々と分かち合われ、「日々

の糧」となり、「養成」され、「組織」として協力宣教につながることを司教は願っている。

今、現代社会に目を向けると、「いのちの尊厳」が見失われ、差別を生み、自国優先による排他主義に陥り、経済・物質優先主義が

ぶ必要があると強調し、「知らなかった」では済まされぬ悲劇が各所で起こっている、と司教は教区民へ訴えている。

この後に、教皇フランシス

振り返ってみましょう」と

を向けて考えると、

と、世界の平和、戦争、

とで、世界の平和、戦争、

とで、世界の平和、戦争、

とで、世界の平和、戦争、

和の日」メッセージ「良い政治は平和に寄与する」の全文を掲載。「11月に日本を訪ねられる教皇様に心を合わせ、丁寧な読み、共に振り返っていきましょう」と

今回の司教書簡は、社会

が直面する足元の問題に目

もった書簡であった。

教皇の平和の日メッセージ

とで、世界の平和、戦争、

とで、世界の平和、戦争、

とで、世界の平和、戦争、

教皇の平和の日メッセージ

とで、世界の平和、戦争、

とで、世界の平和、戦争、

とで、世界の平和、戦争、

とで、世界の平和、戦争、

とで、世界の平和、戦争、

とで、世界の平和、戦争、

とで、世界の平和、戦争、

「私は今というこの瞬間を生きて、そしてそれを愛で満たそう」これは、ベトナムのトウアン司教様(のちに枢機卿)が、ベトナム戦争終結後、政権によって逮捕され、収容所に連行される車の中で決心されたことだ。

師は2002年、74歳で帰天なさいました

が、その信仰は今も受けつがれ、その証がベトナムの教会のいたるところで豊かな実りをもたらしているそうです。

はばたき

はばたき

はばたき

はばたき

はばたき

はばたき

はばたき

はばたき

はばたき

はばたき

はばたき

はばたき

はばたき

## 2019年度 高松教区人事

地区・ブロック	名前	担当教会	司牧教会	役職
本部事務局	Bp. 諏訪榮治郎 Fr. パスクアル・サリオン Dn. 小山 一 多田 洋 井川美佳 小島順子			宗教法人カトリック高松司教区代表役員 司教総代理・本部事務局長 本部副事務局長・東讃B協力 本部事務局会計担当・学校法人聖母学園事務局長 本部事務局経理課 本部事務局総務課
東讃B(ブロック)	☆Fr. 宋 亨根(ブロック長) Fr. 松永洋司 Dn. 西川康廣 助祭 Dn. 谷口広海 助祭 Dn. 小山 一(助祭) Fr. 池田義高 Fr. アントネロ	桜町教会 番町教会 *三本松教会(管理) 東讃B協力 東讃B協力 (東讃B協力司祭)	*三本松教会 *小豆島教会	桜町聖母幼稚園チャプレン(今治教会) マリアの園チャプレン 霊性セクター担当(本部事務局長) マリアの園チャプレン協力 長尾聖母幼稚園園長・教区典礼・広報・TSC担当 本部副事務局長
西讃B (協同司祭)	Fr. パスクアル・サオリノ Fr. 高山 徹 Fr. ホルヘ・ソーザ Dn. ウィリアムSR・T Fr. 井原彰一	丸亀教会 坂出教会 観音寺教会 (西讃協力英語ミサ (協力司祭)	*善通寺教会 *池田教会 *伊予三島教会	丸亀聖母幼稚園チャプレン・高松刑務所教諭師 坂出マルチン病院チャプレン(三本松教会) 観音寺聖母幼稚園チャプレン・愛光学園非常勤講師 ICC 英文翻訳 ボイスカウト 坂出マルチン病院医師
愛媛地区 東予B	Fr. ゴ・ヴァン・ティン Fr. フェルナンド・マヨラル	今治教会 新居浜教会	*伯方島司牧 *西条教会	若葉幼稚園チャプレン(宇和島教会) 愛光幼稚園チャプレン・西条聖マリア幼稚園チャプレン
中予B	☆Fr. 川上栄治 Fr. ファン・グスマン・トアイ Fr. マリアノ・ゴンザレス Fr. ファン・マヌエル Fr. アルベルト・サイス	松山教会 松山教会	道後教会 道後教会	星の星幼稚園チャプレン 共働司祭(福岡教区) ドミニコ会地区長(協力司祭) 愛光学園理事長(協力司祭) 道後聖母幼稚園チャプレン(協力司祭)
南予B	☆Fr. 甲 繁時 ☆Fr. イルタヤラ・ジアン・トニサミ Fr. 岩崎 武 Fr. 池田純(レイ) Fr. 硫黄隆二	宇和島教会 中島町教会 江ノ口教会 (地区協力司祭)	*八幡浜教会 *安芸・中津教会 *赤岡教会	愛和幼稚園・八幡浜聖母幼稚園チャプレン(大阪教区) 高知聖母幼稚園園長・海の星幼稚園園長・高知教諭師 みその児童福祉会・高知聖園天使園協力(小豆島教会)
高知地区	☆Fr. イスマエル・ゴンザレス Fr. スティーブ・ロザリオ Fr. 乾 盛夫 Br. 八木信彦	徳島教会 鳴門教会 (鳴門教会協力)	*阿南教会	徳島地区長・徳島刑務所教諭師 ICC 青少年司牧 鳴門聖母幼稚園園長・阿南聖母幼稚園園長 阿南教会管理代理者・養成担当・一粒会担当

\*Fr. 松浦信行: 東京神学院院長 \*Fr. 稲毛利之: 西宮聖ドミニコ修道院(サテュイカル) \*Fr. ネルソン・ウィリアム: 米国ベネディクト会修道院  
\*Fr. サトルニノ・ゴンザレス、Fr. ルイス・グティエレス: 引退 \*☆: 地区/B長 \* ( ): 前任

# 「世界平和の日」教皇メッセージ

## 1. 「この家に平和があるよ」

平和をもちたすことは、キリストの弟子の使命の核心です。そしてその相手は、人類が歩み中で起る悲劇と暴力の渦中において、平和を願うすべての人です【1】。

イエスのことばにある「家」とは、それぞれの個性と歩む道をもつ各家庭、各共同体、各国、各大陸であり、そしてなによりもまず、区別も差別もされず、たとく一人ひとりの人間です。

それはまた、わたしたちの「共通の家」、すなわち神がわたしたちを住まわせたところ、心を配って大切にしよう求めているところ、この地球でもあります。したがってわたしたちもそう祈りたいと思います。「この家に平和があるよ」。

## 2. よい政治の挑戦

平和は、詩人シヤルル・ペギーが語る希望【2】

すなわち暴力という石の間で咲こうとする、か弱い花のようなものです。どんな犠牲を払ってでも権力を求めることが虐待と不正義につながることを、わたしたちは知っています。

政治は市民権と人間活動を築くうえでの基本的な手段ですが、それをつかさどる人々が、人間社会に奉仕するのでなければ、抑圧、疎外、さらには破壊の道具にすぎないままです。

「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい」(マルコ・35)と、イエスは語りました。

聖パウロ6世が強調しているように、「地方、地域、国、全世界といったそれぞれレベルで真摯に政治に取り組むことは、一人ひとりの人間には、具体的な現実を識別する義務、さらには都市、国家、人類の善とともに達成するために与えられた、選択の自由の重要性を認める義務があることを意味します」【3】。

実際、自国のために尽くし、そこで生活する人々を守り、国民にさわしい公正な未来のために必要な条件を整えるという使命を担うすべての人にとって、政治の役割と責任とは、絶え間ない挑戦です。

人間のいのちと自由、尊厳に対する根本的な敬意のもとに行われるとき、政治は愛のわざの卓越したかたちとなるに違いありません。

## 3. 人権と平和に寄与する政治としての愛のわざと人間の徳

教皇ベネディクト十六世は次のように述べています。「すべてのキリスト者は、その呼ばれている役割と、社会体制(ポリス)の中で影響力の度合いに応じて、この愛を実践するよう召されていきます。

愛によって動かされるとき、共通善への献身は、単に世俗的かつ政治的な立場がもつものよりも大きな価値をもちます。

地上での人間の活動は、愛によって鼓舞され、持続させられるとき、人類という一つの家族の歴史の目的である普遍的な神の国の建設に貢献します」【4】。

正義、公平、相互尊重、率直、誠実、忠実といった、よい政治活動の基礎である人間の徳を実践しながら、人類家族の善のために働くことを望む政治家は、

## 4. 政治の悪徳

真の民主主義の理想をむしばむ悪徳は社会生活の恥であり、社会の平和を脅かします。

その悪徳とは腐敗、公共財のさまざまな私たちの横領や人間の搾取、権利の否定、共同体の規則の軽視、違法な蓄財、力づくでの、もしくは国是という恣意的な口実による権力の正当化、権力にしがみつこうとする傾向、排外主義、人種差別、地球保護の否定、目先の利益のための天然資源の無制限な搾取、移住を余儀なくされた人々に対する蔑視などです。

人間関係は複雑ですから、そのような確信を持つのは決して容易ではありません。とくに近年、わたしたちは他者もしくは部外者に対する恐れ、自己の利益を失うことへの不安に根ざした不信感の中で生きています。

そして残念なことにそれは、グローバル化された現代世界にこそ強く求められる兄弟愛を疑問視する、閉鎖的あるいは自国第一主義的な姿勢を通して、政治にも表れています。

人類家族の善と幸福を望んでおられる御父の使者、真のあかし人となる「平和の作り手」を、わたしたちの社会は今日、これまで以上に必要としています。

## 5. よい政治は若者の参加と他者への信頼を促す

政治には美徳があります。が、残念なことに、個人の愚かさや環境と制度のゆがみのために、悪い側面が多くなることもありません。

だれもが理解しているように、政治活動における悪徳は、政治に携わる人々の権威、決定、取り組みだけでなく、それが行使される政治制度そのものの信頼性を失墜させます。

真の民主主義の理想をむしばむ悪徳は社会生活の恥であり、社会の平和を脅かします。

その悪徳とは腐敗、公共財のさまざまな私たちの横領や人間の搾取、権利の否定、共同体の規則の軽視、違法な蓄財、力づくでの、もしくは国是という恣意的な口実による権力の正当化、権力にしがみつこうとする傾向、排外主義、人種差別、地球保護の否定、目先の利益のための天然資源の無制限な搾取、移住を余儀なくされた人々に対する蔑視などです。

人間関係は複雑ですから、そのような確信を持つのは決して容易ではありません。とくに近年、わたしたちは他者もしくは部外者に対する恐れ、自己の利益を失うことへの不安に根ざした不信感の中で生きています。

そして残念なことにそれは、グローバル化された現代世界にこそ強く求められる兄弟愛を疑問視する、閉鎖的あるいは自国第一主義的な姿勢を通して、政治にも表れています。

人類家族の善と幸福を望んでおられる御父の使者、真のあかし人となる「平和の作り手」を、わたしたちの社会は今日、これまで以上に必要としています。

## 6. 戦争と恐怖戦術の拒否

第一次世界大戦の終結から100年後の今日、わたしたちはその戦場で若者がいのちを落とし、一般市民が引き裂かれたことを思い起こすとともに、兄弟姉妹どうしの戦争が残した重大な教訓をさらに深く胸に刻みます。

それは、力と恐怖の均衡だけの問題として、平和を

## 7. 平和に向けた偉大な計画

わたしたちは先日、第2次世界大戦後に採択された世界人権宣言の70周年を祝いました。このことに関し



よい政治は平和に寄与する

なく、共通善のために働く政治家は、幸いである。一貫して忠実である政治家は、幸いである。一致を実現する政治家は、幸いである。

本抜的改革を行うために尽力する政治家は、幸いである。

耳を傾けることのできる政治家は、幸いである。

ひるまない政治家は、幸いである【5】。

改選や選挙期日のために、また市民生活が節目を迎えるたびに、正義と法の起源と基準点に立ち返る機会が訪れます。

わたしたちは次のことを確信しています。

よい政治は平和に寄与します。よい政治は基本的な人権を尊重し促します。それは相関的な義務でもあります。こうして、今の世代と将来の世代との間に、信頼と感謝のきずなが結ばれるのです。

しめたりするのではなく、人を気づかい、生きるのを助ける手となるよう神は望まれました。

心や知性と同様、手も対話の手段になることができ「6」。

人は皆、共通の家を築くために自分自身の石を差し出すことができます。法および人と人との誠実な対話に基礎を置く真の政治活動は、すべての人、あらゆる世代が、関係、知性、文化、精神の新たな力を発揮できる可能性を内に秘めていると確信するとき、刷新されます。

人間関係は複雑ですから、そのような確信を持つのは決して容易ではありません。とくに近年、わたしたちは他者もしくは部外者に対する恐れ、自己の利益を失うことへの不安に根ざした不信感の中で生きています。

そして残念なことにそれは、グローバル化された現代世界にこそ強く求められる兄弟愛を疑問視する、閉鎖的あるいは自国第一主義的な姿勢を通して、政治にも表れています。

人類家族の善と幸福を望んでおられる御父の使者、真のあかし人となる「平和の作り手」を、わたしたちの社会は今日、これまで以上に必要としています。

とらえてはならないという教訓です。他者を脅かすことは、相手を物として見下し、その人たちの尊厳を否定することを意味します。

ですから、威嚇的な言動の過激化は、抑制のきかない軍備増強と同じように、倫理にも真の融和の追求にも反するものであるということ、わたしたちはあらためて明言する必要があります。

もともと弱い立場にある人々が見舞われた恐怖のために、全人口が平和を求め、故郷を去ることもあり得ます。悪いことをすべて移住者のせいにして、貧しい人から希望を奪う政治的な言動は許しがたいものです。

そうではなく、平和の基盤となるのは、経歴には左右されずに一人ひとりに敬意を払うこと、法と共通善を尊重すること、わたしたちに託された被造物を大切にすること、過去の世代から受け継いだ倫理的財産を尊重することであることが強調されるべきです。

また、紛争地帯にいる子どもたちと、自分のいのちと権利を懸念に守っているすべての人に、わたしたちはどのわけ思いを寄与します。

世界では、六人の子どものうち一人が、たとえ少年兵として徴用されたり、武装勢力の捕虜になったりしていないとも、戦争による暴力とその余波の影響を受けています。

子どもたちの尊厳を守り、子どもたちを大切にしている人々のあかしは人類の未来にとって極めて重要です。

子どもたちの尊厳を守り、子どもたちを大切にしている人々のあかしは人類の未来にとって極めて重要です。

子どもたちの尊厳を守り、子どもたちを大切にしている人々のあかしは人類の未来にとって極めて重要です。

子どもたちの尊厳を守り、子どもたちを大切にしている人々のあかしは人類の未来にとって極めて重要です。

「差し伸べられた手ほど素晴らしいものがあるでしょう。それは、与えて受け取るよう神がお望みになった手です。人を殺したり(創世記4・1以降参照)、苦

て、聖ヨハネ二十三世教皇のことは思い起こしましょう。一人人間は、自分の権利を意識するようになるにつれ、当然その権利に対応する義務にも気づくようになります。

権利を有するということが、その権利を行使する義務を伴います。なぜなら、権利は尊厳の現れであるからです。

そして、他のすべての人々にも、その権利を認め尊重する義務があります【7】。

平和は、人々が責任を担い合い、支え合うことに基づく政治の偉大な計画の実りにほかなりません。

しかしそれは、日々、取り組むべき挑戦でもあり、平和は心と魂の回心であり、心と共同体におけるこの平和には、切り離す

とできない三つの側面があることは容易に理解できます。

自分自身との平和。聖ラウレンス・サレジオの勧めに従って、頑固さ、怒り、忍耐力のなさを克服してください。

他者との平和。家族、友人、見知らぬ人、貧しい人、苦しんでいる人、彼らと物おじせずに出会い、そのことばに耳を傾けてください。

被造物との平和。神のたまもの偉大さを再発見し、わたしたち一人ひとりは地球の住人、市民、未来の担い手として、責任を共有していることを再認識してください。

人間の弱さを熟知し、そ

れに対処できる平和な政治は、救い主の母、平和の元后であるマリアが、すべての人間の名のもとに歌った賛歌(マニフィカト)の心にも立ち返ることができません。

「そのあわれみは代々に限りなく、主をおそれる者に及びます。主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、…あわれみをお忘れになりません、わたしたちの先祖におっしゃったとおり、アブラハムとその子孫に対してとこしえに」(ルカ1・50-55)。

パチカにて  
2018年12月8日  
フランシスコ

### 教皇の声明を共に振り返ってみましょう

1. この家に平和があるよ  
「この家」とは何を指しているのでしょうか。あなた自身の周りを見渡して「この家」に何が起っているのでしょうか。
  2. 良い政治の挑戦  
あなたの周りで、弱い立場に置かれている人々がどのように生きているのでしょうか。
  3. 人権と平和に寄与する政治としての愛のわざと人間の徳  
この社会(世界)の中で、あなたはそのような愛のわざを見えていますか。
  4. 政治の悪徳  
福音的な価値から離れていくような政策を身に受けている人々を心に留めてみましょう。
  5. 良い政治は若者の参加と他者への信頼を促す  
「この家」のために自分自身を差し出すという経験を互いに分かち合ってみましょう。
  6. 戦争と恐怖戦術の拒否  
新聞の記事にはさまざまに出来事情報(ことば)が掲載されています。各社の新聞記事から、福音的であるもの、福音的でないものをえり分け(グループ作業)大きな模造紙に「ラジュー」を作ってみましょう。そこから何が見えて来ますか。
  7. 平和に向けた偉大な計画  
教会は「弱い立場に置かれた人々」の側に立たれたイエス様に従ってあゆみます。
- 「弱くされた人々を優先する」教会は、この社会の中でさらに豊かな「福音の奉仕者」となるのです。
- わたしたちが「平和・命の尊厳」を守るために、どのような「福音の奉仕」に駆り立てられるでしょうか。

9月16日朗読奉仕者選任式



7月15日小豆島高山右近祭



7月1日高知殉教者祭



神とともに歩んだ 2018年 高松教区



12月2日  
祭壇奉仕者選任式



6月10日

東日本大震災復興7年現地活動報告会



5月17日三本松ルルド祭



9月16日桜町教会コスモス会(敬老会)

教区スケジュール

Table with 2 columns: Date and Event. Includes dates from March 3rd to 30th with various church events like 'Economic Problem Review Meeting', 'Lent', 'Easter', and 'Ascension'.

日・比・ベトナムのこぼれ分ち合い

八幡浜教会で司教訪問

2018年度教区長使徒ヨハネ訪談会が、愛媛地区南予ブロック(ヨセフ・文成神父担当)へのご訪問でした。南予ブロックは、宇和島教会と八幡浜教会で構成されています。

分ち合いの導入が行われ、その後、約20名の日本人グループ、約40名のベトナム青年グループ、約12名のフィリピン人グループ、5名の子供グループに分かれて、諏訪司教、呉神父のファシリテーションのもと、分ち合いを行いました。



分ち合いとミサ後の感謝の会食

分ち合いの後は、司教司式のもと、日本語、ベトナム語、英語の日本語のみの特別な多言語国際ミサを実施しました。

分ち合いの導入が行われ、その後、約20名の日本人グループ、約40名のベトナム青年グループ、約12名のフィリピン人グループ、5名の子供グループに分かれて、諏訪司教、呉神父のファシリテーションのもと、分ち合いを行いました。

分ち合いの導入が行われ、その後、約20名の日本人グループ、約40名のベトナム青年グループ、約12名のフィリピン人グループ、5名の子供グループに分かれて、諏訪司教、呉神父のファシリテーションのもと、分ち合いを行いました。

分ち合いの導入が行われ、その後、約20名の日本人グループ、約40名のベトナム青年グループ、約12名のフィリピン人グループ、5名の子供グループに分かれて、諏訪司教、呉神父のファシリテーションのもと、分ち合いを行いました。

分ち合いの導入が行われ、その後、約20名の日本人グループ、約40名のベトナム青年グループ、約12名のフィリピン人グループ、5名の子供グループに分かれて、諏訪司教、呉神父のファシリテーションのもと、分ち合いを行いました。

分ち合いの導入が行われ、その後、約20名の日本人グループ、約40名のベトナム青年グループ、約12名のフィリピン人グループ、5名の子供グループに分かれて、諏訪司教、呉神父のファシリテーションのもと、分ち合いを行いました。

度行われてきたため、躍動的なベトナム語聖歌が築83年になる聖堂に響きわたりました。

度行われてきたため、躍動的なベトナム語聖歌が築83年になる聖堂に響きわたりました。

度行われてきたため、躍動的なベトナム語聖歌が築83年になる聖堂に響きわたりました。

度行われてきたため、躍動的なベトナム語聖歌が築83年になる聖堂に響きわたりました。

度行われてきたため、躍動的なベトナム語聖歌が築83年になる聖堂に響きわたりました。

度行われてきたため、躍動的なベトナム語聖歌が築83年になる聖堂に響きわたりました。

度行われてきたため、躍動的なベトナム語聖歌が築83年になる聖堂に響きわたりました。



心合わせ共に祈る一致祈週間

今回のキリスト教一致祈週間(3月18日-22日)は、「ただ正しいことを追求しなさい」というテーマで、世界情勢を反映したテーマです。

今回のキリスト教一致祈週間(3月18日-22日)は、「ただ正しいことを追求しなさい」というテーマで、世界情勢を反映したテーマです。

今回のキリスト教一致祈週間(3月18日-22日)は、「ただ正しいことを追求しなさい」というテーマで、世界情勢を反映したテーマです。

今回のキリスト教一致祈週間(3月18日-22日)は、「ただ正しいことを追求しなさい」というテーマで、世界情勢を反映したテーマです。

今回のキリスト教一致祈週間(3月18日-22日)は、「ただ正しいことを追求しなさい」というテーマで、世界情勢を反映したテーマです。

今回のキリスト教一致祈週間(3月18日-22日)は、「ただ正しいことを追求しなさい」というテーマで、世界情勢を反映したテーマです。

Advertisement for a consultation window for children and women, providing contact information and hours.

一致祈週間が、組織的な一致ではなく、心を合わせて共に祈る機会となることを伝えて下さいました。

一致祈週間が、組織的な一致ではなく、心を合わせて共に祈る機会となることを伝えて下さいました。

一致祈週間が、組織的な一致ではなく、心を合わせて共に祈る機会となることを伝えて下さいました。

一致祈週間が、組織的な一致ではなく、心を合わせて共に祈る機会となることを伝えて下さいました。



福音マーケットを説く諏訪司教

今年も少し遅めの四旬節となります。また3月は別れと出会いの季節です。